

小学校 6 年 埼玉県放送教育会の理論と AI テキストマイニングを活用した実践 ～新番組 道徳「SEED なやみのタネ」の視聴を通して～

埼玉県川越市立霞ヶ関東小学校 武井 佑樹

【実践報告の概要】

埼玉県放送教育研究会では、番組視聴を通して「意味場」と「空発問」の理論から、放送教育での授業実践を進め、コロナ禍の中、月 1 回の zoom 定例会にて報告している。今年度、私は普段見えない「意味場」の具現化・具象化に近いものとして「AI テキストマイニング」を活用して授業実践を行なった。

【活用番組と実践者による番組分析】

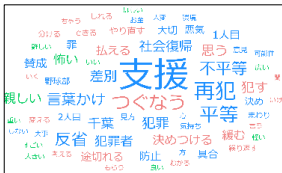
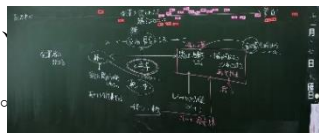
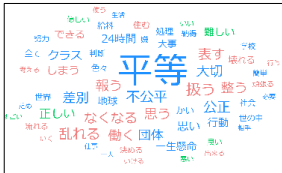
活用番組…道徳「SEED なやみのタネ」

- 2021 年 10 月より新番組として放送開始。
- 「道徳ドキュメント」「オン・マイ・ウェイ！」の系譜を受け継ぐ、道徳のドキュメント番組。
- 番組にストーリーがある。
- 主人公の悩みを取り上げ、向き合う姿を通じて現代社会の課題を考えていく内容。
- 児童生徒の生活とは、内容が離れているからこそ考えやすい。

【取組の具体】

○授業の仕方

- ①
 - ・番組を視聴する。
(「意味場」が形成される。)
- ②
 - ・Google Forms で価値項目についてアンケートを取り、「AI テキストマイニング」に読み込ませる (1 回目)。
- ③
 - ・分析された言葉を起点として、「空発問」をし、話し合う。
収斂され構造的な板書をする。
- ④
 - ・授業終了間際に再度、Google Forms で価値項目についてアンケートを取り、「AI テキストマイニング」に読み込ませる。(2 回目)
- ⑤
 - ・道徳ノートに授業 1 単位時間の振り返り
(学んだこと、考えたことなど)を記入する。
- ⑥授業事後(教員)
 - ・児童のノート記入や 1 回目、2 回目の AI テキストマイニングの画像、板書から授業について振り返る。



【本実践における工夫点】

○「意味場」の理論の活用

児童一人ひとりの発育環境の違いから、知識や経験は多様である。上記のことから番組を視聴すると、思考上での児童一人ひとりで物事のとらえ方や考え方も多様になる。これが「意味場」である。

○「空発問」の理論の活用

形成された「意味場」をアウトプットする方法。教員が「A ということについてどう思いますか?」と発問すると、児童は A について焦点をあてて回答しようとする。だからこそ「意味場」をそのまま表現するために、意図的に無意図の発問をする必要がある。それが「空発問」である。

○AI テキストマイニングの活用

Word やドキュメントなどの「テキスト」を流し込むと AI が判断して、頻度によって語の大きさが変わったり、関連付けられた語が線で結ばれたりする。それを見て、話し合いの起点として用いた。また授業後の分析にも役立てた。

【本実践の成果と課題】

- 番組を大型 TV で一斉視聴したことで、教科書を使用したときに要する読解力を用いず、同じスタートラインに立って話し合いを始められた。
- AI テキストマイニングを活用することで、挙手しない児童も参加することができた。
- AI テキストマイニングを活用することで、話し合いの起点を作れ、話し合い前後の比較ができ、授業後の分析もできた。
- GIGA スクール構想元年ということもあり、当初はタイピングによる打ち込みに時間をとられていたが、回数をこなすことで練度が上がっていった。